

2014年5月1日発行

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES
日本国際文化学会ニューズレター27号

<http://www.jsics.org/>

日本国際文化学会事務局

753-8502

山口県山口市桜島3-2-1

山口県立大学

国際文化学部事務室内

Tel/Fax:083-928-3423

email:jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

第13回全国大会開催のお知らせ

2014年7月5日(土)、6日(日)

文化を「しあわせる」——地と知を織り成す拠点としての大学

大会テーマの「しあわせる（仕合わせる）」は、複数の繊維をよりあわせて（仕合わせて）一本の糸へと紡ぎ上げることを意味します。山口では方言として「幸いです、幸甚です」の意味で「しあわせます（仕合わせます、幸せます）」という言葉を使っています。異なる「もの」「文化」「人」が仕合わせられるときに幸せが生まれるという思いを込めて、全国大会を開催いたします。

自由論題、共通論題ともに、力強く多様なテーマが出揃いました。シンポジウム『ここから始まる私の地球—インターローカル人材が拓く未来』や、フォーラム『文化は地域や世界に希望をもたらすか？—文化交流創成コーディネーターの可能性と教育カリキュラム』では、文化をつむぎ、つなぎ、てわたすための具体的な手法について考えます。山口らしい情報交換会も用意し、みなさまのご参加をお待ちいたしております。

以下に大会日程をお知らせします。ぜひお誘いあわせの上、ご参加いただきます様よろしくお願いたします。事前申し込みの場合は参加費の割引がありますので、ご利用ください。

第13回全国大会プログラム日程

●大会日程

7/4(金) 20:00-21:30 常任理事会・理事会

ホテルニュータナカ（弥生の間）〒753-0056 山口県山口市湯田温泉2-6-24

*山口宇部空港（東京羽田からANA18:05着、JAL18:20着）から18:45発の送迎バスが出ます。

送迎バスは新山口駅を經由し（新幹線改札から左方向の新幹線口へ出て1階のバス乗り場から19:15発）、会場まで行きます。

出欠表に送迎バス利用の有無をご記入ください。夕食のお弁当を用意してあります。

7/5(土)

8:30 受付
9:30-11:30 自由論題 A・B・C
11:45-13:45 共通論題 1・2
13:45-14:45 昼食
15:00-17:30 シンポジウム
18:15-20:30 情報交換会(終了時刻は予定)

*情報交換会にご出席の方には会場までのバスと、情報交換会終了後に湯田温泉経由で新山口駅までのバスが出ます。

7/6(日)

8:00 受付
9:00-10:00 自由論題 D・E・F
10:10-12:10 共通論題 3・4
12:10-13:10 昼食・総会
13:15-14:45 フォーラム
15:00-16:40 学生向けワークショップ

*山口宇部空港最終便(東京羽田空港)をご利用の方に17:00に空港行きのバス(新山口駅経由)が出ます。新山口駅までは約30分、山口宇部空港までの所要時間は約1時間です。

●大会会場

大会会場：公立大学法人山口県立大学新キャンパス(看護キャンパス)

<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/annai/gaiyo/syuuhen.html>

JR山口線宮野駅から徒歩10分。

●大会事務局

大会委員長 鈴木隆泰(山口県立大学附属図書館長)

連絡先 〒753-8502 山口県山口市桜島3-2-1

山口県立大学国際文化学部事務室内 日本国際文化学会事務局

e-mail: jsics@yamaguchi-pu.ac.jp Tel: 083-928-3423(月-木:9:00~16:00)

大会の参加申し込みについて

●大会参加費

一般会員 2,000円(当日2,500円) 一般非会員 3,000円(当日3,500円)

院生・学生 1,000円(当日1,500円)

情報交換会 一般 5,000円 院生・学生 2,500円

お弁当(お茶つき) 7月5日 1,000円 7月6日 1,000円

*学会開催日に当たる週末は学生食堂が閉まっております、会場周辺には食堂やお店がありません。

お弁当の予約をお勧めします。

●事前申し込み、振込方法と振込先

同封(学会ホームページ上からダウンロード可)の事前申込書にご記入の上、郵送・ファックス・メールで送付の上、同封の振込用紙でお振込をお願いします。

*大会参加費に関する会費の種別と金額(一般会員事前、非会員事前、院生・学生事前)と、情報交換会参加の場合は種別と金額(一般、院生・学生)を、振込用紙の通信欄に必ずご記入ください。

郵便局の振込用紙をご使用の場合は、以下の口座にお振込みをお願いします。その場合も通信欄への種別・金額等のご記入を必ずお願いいたします。

01390-1-89396 日本国際文化学会

会場へのアクセスと宿泊先について

●山口県立大学新キャンパス（看護キャンパス）へのアクセス

- ・航空機利用の場合：東京羽田→山口宇部空港、空港バスで新山口駅へ、J R 山口線に乗り換え宮野駅下車、徒歩10分。
- ・東京以外の空港からは福岡空港へ。博多駅から新山口駅まで新幹線で約30分。JR山口線に乗り換え宮野駅下車、徒歩10分。
- ・新幹線利用の場合：最寄駅から新山口駅へ、J R 山口線で宮野駅下車、徒歩10分。
- ・新山口駅から県立大学前まではJR山口線のほか、防長バスも利用できます。
- * 7月5日(土)の朝は、新山口駅（新幹線口：8：00発）、湯田温泉バス停（8：30発）の送迎バスがご利用になります。ご利用の方は事前申込書にご記入ください。
- * 7月6日(日)の朝は、新山口駅（新幹線口：7：30発）、湯田温泉バス停（8：00発）の送迎バスがご利用になります。ご利用の方は事前申込書にご記入ください。
- * バスやJ R等の時刻表についての詳細は別紙の通りです。

●宿泊について

宿泊については各自でご予約お願いします。ホテル情報は以下の通りです。

- 新山口駅周辺の場合は、会場まではJR山口線利用になります。新山口駅—宮野駅間は約30分です。
- 山口駅周辺の場合は、会場まではJR・バス・タクシー利用になります。バスで10分程度の距離です。
- 湯田温泉周辺の場合は、会場まではJR・バス・タクシー利用になります。バスで20分程度の距離です。

新山口駅周辺	ホテルアクティブ！山口	新山口駅新幹線口から徒歩1分
	東横イン	
	山口グランドホテル	
	ホテルアムゼ新山口	新山口駅新幹線口から徒歩2分
	新山口ターミナルホテル	新山口駅北口から徒歩1分
	コンフォートホテル新山口	
山口駅周辺	サンルート国際ホテル山口	J R 山口線山口駅から徒歩10分。新山口駅北口発の防長バス市役所前下車、徒歩1分
湯田温泉周辺	グリーンリッチホテル山口湯田温泉	J R 山口線湯田温泉駅からいずれも徒歩10分。 新山口駅発の防長バス湯田温泉駅下車。
	スーパーホテル山口湯田温泉	
	湯田温泉ホテルニュータナカ	
	ホテル喜良久	
	セントコア山口	
	その他多数	

大会プログラム

●受付 F棟ロビー

●荷物預かり所・休憩室・弁当引き渡し場所：F111教室・F112教室

●自由論題 A～C

7/5(土) 9:30-11:30

自由論題A：E104（会議室）

司 会：白石さや（岡崎女子大学教授）

- ・相原往代（佐賀大学文化教育学部講師）
「現代若者の『恋愛のカタチ』——男女の『バランス感覚』と『安心』感」
- ・北林健二（山口県県史編さん室明治維新部会専門研究員）
「地域素材を用いた教育カリキュラムの開発について——大学生によるプリント作成の可能性をさぐる」
- ・水谷由美子（山口県立大学国際文化学部教授）
「サービスデザインで生活を変える、社会が変わる——山口県立大学『地（知）の拠点整備事業COC』の事例から」
- ・大和裕美子（ソウル大学アジア研究所客員研究員）
「山口県長生炭鉱水没事故の追悼碑建立運動——『被害者』の立場からも受け入れられる追悼碑とは」

自由論題B：E312教室

司 会：寺田元一（名古屋市立大学教授）

- ・金野誠志（鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授）
「地球市民としての自己認識——その可能性をめぐって」
- ・白川俊介（九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究員）
「文化的構想としてのデモクラシー——暗黙知としての言語に着目して」
- ・帆北智子（東北大学大学院国際文化研究科専門研究員）
「初期近代ロレーヌ＝エ＝バール公権の領邦君主権——ヨーロッパにおける『主権』概念に関する一考察」
- ・山脇千賀子（文教大学国際文化学部准教授）
「第二次世界大戦前後のペルー日系社会にとってのキリスト教」

自由論題C：E412教室

司 会：岡真理子（青山学院大学教授）

- ・呉 暁良（九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程）
「日本における留学生受入政策の現状と課題——山東省を事例とした中国人学生の留学情報受容に関する一考察」
- ・関根理恵（東京藝術大学大学院美術研究科非常勤講師）
「文化財保護の歴史」
- ・福田州平（大阪大学グローバルコラボレーションセンター・特任研究員）
「フィラデルフィア万博の開催における外国の参加」
- ・山崎珠葉（山口県立大学研究生）
「文化や工芸と現代技術の融合によるモノづくりに関する研究」

●自由論題 D～F

7/6(日) 9:00-10:00

自由論題D：E104(会議室)

司 会：植野雄司(プール学院大学教授)

・安藤公門(有限会社あったか村)

「タイ北部農村地帯における衛生環境事業の実践から見えてきた未来型社会——糞尿を資源として活用する循環型社会の形成のために」

・今井隆太(愛知大学ほか非常勤講師)

「福武直による40年代中国農村社会調査」

自由論題E：E312教室

司 会：鳥飼玖美子(立教大学教授)

・越智淳子(早稲田大学アジア研究機構アジア・北米研究所、日韓グローバル研究所招聘研究員、大岡信ことば館アドバイザー)

「大岡信の国際性に関する考察——その内在性と多様なあらわれ方」

・尹 盛ヒ(関西学院大学国際学部准教授)

「翻訳字幕の語用論的機能」

自由論題F：E412教室

司 会：木原 誠(佐賀大学教授)

・大形利之(東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科教授)

「インドネシアの過激なイスラーム・ウェブサイトに関する一考察」

・廣瀬 龍「多文化共生主義と昨今の排外主義の台頭考察——昨今のヘイトスピーチを中心に」

●共通論題 1～2

7/5(土) 11:45-13:45

・共通論題1：「飯舘村再生への文化の貢献」 E312教室

司 会：若林一平(文教大学名誉教授)

基 調 報 告：菅野宗夫(飯舘村農業委員会会長、特定非営利活動法人ふくしま再生の会理事)

パネリスト：加藤久美(和歌山大学)、サイモン・ワーン(和歌山大学)、川村湊(法政大学)、
椎野信雄(文教大学)

・共通論題2：「戦前・戦中期の中国をめぐるトランスナショナル・ネットワーク——ジェームズ・バートラム、松本重治、渋沢敬三」 E412教室

司 会：山内晴子

報 告 1：「西安事件を取材したニュージーランド人——ジェームズ・バートラム(仮)」

山岡道男(早稲田大学)

報 告 2：「戦前期の松本重治と上海におけるイギリス帝国ネットワーク(仮)」 高光佳絵(千葉大学)

報 告 3：「渋沢敬三の中国をめぐるネットワーク——1943年訪中から戦後へ(仮)」

飯森明子(常磐大学)

●共通論題 3～4

7/6(日) 10:10-12:10

・共通論題3：「造られる文化、変わる文化——映画、音楽番組、大衆演劇を事例として」 E312教室

司 会：鈴木裕輔(法政大学)

- 報告 1 : 「日本映画における〈妖怪〉——日本映画における伝統文化の引用と変容」
 ティタニラ・マートライ (早稲田大学坪内博士記念演劇博物館研究員)
- 報告 2 : 「こうして文化は作られる——NHK紅白歌合戦を事例として」
 シェリー・プラント (ロイヤル・メルボルン工科大学)
- 報告 3 : 「宝塚歌劇とレビュー——外来文化の普及と定着」
 鈴木裕輔 (法政大学)

●共通論題4 : 「近代日本の対外認識——中国・モンゴルへのまなざし」 E412教室

- 司 会 : 堀内直哉 (目白大学)
- 報告 1 : 「有賀長雄の対外認識——日露戦争から辛亥革命まで」 伊藤信哉 (松山大学)
- 報告 2 : 「右翼思想家の中国認識——満州事変から日中戦争直前まで」 萩原稔 (大東文化大学)
- 報告 3 : 「モンゴル認識の形成——財団法人善隣協会の活動とモンゴル研究の軌跡から」
 鈴木仁麗 (明治大学)

●シンポジウム「ここから始まる私の地球——インターローカル人材が拓く未来」

7/5(土) 15:00-17:30 講堂

*このシンポジウムは山口県立大学グローバル人材育成推進事業として開催し、広く一般にも公開します。

基調講演者 : セリグマン・アダム博士 (Adam B. Seligman、ボストン大学教授、Institute on Culture, Religion and World Affairs代表、哲学・思想家、社会学者)。

演 題 : “Inter-cultural Exchange for Mutual Trust : Practical examples from my experiences” (仮題)
 演 内 容 : 文化の対立・和解・寛容性・対話等をキーワードに、特に若者を対象としたサマースクールやThe Toleration Projectを通して相互理解を生み出す取組について語っていただきます。セリグマン氏のプロフィールについては<http://www.bu.edu/cura/faculty-staff/research-associates/seligman/seligmanc/>を参照ください。同時通訳有。

パネラー : 安溪遊地 (山口県立大学教授)、セリグマン・アダム (ボストン大学教授)、安田震一 (多摩大学教授)、シャルコフ・ロバート (山口県立大学グローバル人材育成推進事業総括)

司 会 : 齊藤 理 (山口県立大学准教授)

演 内 容 : セリグマン氏の基調講演を受け、日本における川喜田二郎の移動大学や山口県出身の民俗学者宮本常一のフィールドワークの思想を受けた安溪遊地 (山口県立大学教授) が、日本における若者交流・多世代交流・市民との対話の思想を生み出してきた場について報告を行います。その後、基調講演者やパネラーを交えて、これからの人と人との相互理解の機会創出と国際文化学の使命について議論します。

●フォーラム「文化は地域や世界に希望をもたらすか?——文化交流創成コーディネーターの可能性と教育カリキュラム」

7/6(日) 13:15-14:45 F204

学会が取り組んできた文化交流創成コーディネーター資格認定制度が始動します。文化をつむぎ、つなぎ、てわたすという文化交流創成コーディネーターの専門性について、すでに地域社会の中にある先例を見据えつつ、現行の国際文化学カリキュラムのなかで実践できる事例を報告します。地域の中で文化交流や文化創造、文化発信等の実践活動を行ってきた学生に発表してもらい、専門的なコーディネーター資格認定には何が必要かについて考えます。学生発表について、各大学からの教員がコメントを加えます。

報告者 : 清水 拓 (龍谷大学国際文化学部国際文化学科3年)

奈良宏美 (法政大学国際文化学部国際文化学科4年)

佐藤志穂 (京都文教大学国際文化学部国際文化学科卒業生)

館野帆乃花 (青山学院大学総合文化政策学部総合文化政策学科4年)

岡部有紗 (佐賀大学文化教育学部欧米文化選修2年)

星山紗奈恵（プール学院大学国際文化学部国際文化学科4年）

高橋知里（山口県立大学国際文化学部国際文化学科3年）

司会：岩野雅子（山口県立大学）

●学生向け100 minutesワークショップ

7/6(日) 15:00-16:40 F204

前日の基調講演者セリグマン博士（Adam B. Seligman、ボストン大学教授）による実践的なワークショップです。

参加者はフォーラム発表学生7名に加え、自由論題発表学生や学会参加学生等のなかからの希望者30名程度（先着順）とします。聴講は一般会員等から50名程度とします。参加や聴講を希望する方は、事前申込書にご記入ください。使用言語：英語

*このワークショップは日本国際文化学会第13回全国大会の枠組みの中で、山口県立大学グローバル人材育成推進事業として開催します。

情報交換会(懇親会と舞いの上演)へのご案内

7/5(土) 18:15-19:45 菜香亭 *バスで雪舟庭へ移動後 20:00-20:30 舞いの上演

明治10年頃に料亭として創業した菜香亭は、130年間にわたり著名人の集まる場としてにぎわってきました。伊藤博文・山県有朋・寺内正毅・田中義一・三条実美・木戸孝允・井上馨・岸信介・佐藤栄作等の揮毫が掲げられた大広間で情報交換会を行います。2004年10月に、山口市の観光施設や市民交流の場、大内文化のまちづくりの拠点として生まれ変わりました。<http://www.c-able.ne.jp/~saikou/>

情報交換会では、2013年7月の大豪雨により大きな被害を受けた山口県北部の被災地からの復興にける話も聞きながら、懇親会を進めます。JR山口線を不通とさせた豪雨の爪痕は、沿線のリンゴ園や田畑に流れ込んだ土砂で、現在でも耕作不能地がみられます。そのなかから、ほぼ全壊した澄川酒蔵が東京等で若い女性からの絶大な人気を誇る日本酒を復活させるまでの思いと全国からの支援について話をうかがいます。なお、食事は、大内氏治世の時代に京都の足利前将軍を山口に招いてひらいた宴をふまえ、当時のレシピを再現した平成大内御前弁当などを予定しています。

舞い「^{ろうそく}和蠟燭の世界」 常栄寺雪舟庭 *会場等の都合により上演できない場合もあります。

防長四白（米、塩、紙、ろう：いずれも白いことからこう呼ばれる）とは、江戸時代に長州藩が生産を奨励した産物で、いずれも大阪の市場等に出されて大きな収入源となっていました。現在では姿を消しつつある四白の文化を、新しい形で創造したいという動きが工芸やデザイン、芸能などの分野で起こりつつあります。ハゼの実からつくられる和ろうそくの灯のもとで、山口の歴史の一端を舞いの演目で表現します。

（企画：花柳寿寛氏）

希少価値のある「場」での文化的イベントとなる情報交換会へのご参加をお待ちしております。

学会総会にご出席お願いいたします

●12:10-13:10 昼食・総会 F204

学会の第13回総会を昼食会場において開催します。2013年度事業報告・決算報告、2014年度事業案・予算案、2016～2017年度理事選挙結果の報告、文化交流創成コーディネーター資格認定制度等の審議の後、第4回平野健一郎賞の授賞式があります。

編集後記

第13回大会の開催通知とプログラムをお届けします。充実した共通論題に加えて、多彩な内容の自由論題18件がそろいました。シンポジウム、フォーラム、ワークショップは、その内容がおのずと一本の糸でつながっていくように思われます。さらに、今回初めて、地域の中での文化交流等の実践活動を行ってきた学生の皆さんによる発表が行われることになり、懸案である文化交流創成コーディネーター制度の発足に向けて、画期的な一歩となることが期待されます。主催校山口県立大学の皆さんの心づくしのご準備により、長州の歴史と伝統を偲びつつ、国際文化の来し方行く末を考える舞台が整いました。会場でお目にかかるのを楽しみにしています。

(FK)

〈日本国際文化学会第13回全国大会 会場一覧〉

7月5日(土)

時 間	プログラム	場 所
8:30 -	受 付	F棟ロビー
	荷物預かり所・休憩所・弁当引渡し場所	F111・F112
9:30 - 11:30	自由論題 A	E104 (会議室)
//	自由論題 B	E312
//	自由論題 C	E412
11:45 - 13:45	共通論題 1	E312
//	共通論題 2	E412
13:45 - 14:45	昼 食	
15:00 - 17:30	シンポジウム	講 堂
18:15 - 20:30	情報交換会 (終了時刻は予定)	菜香亭・常栄寺雪舟庭

7月6日(日)

時 間	プログラム	場 所
8:00 -	受 付	F棟ロビー
	荷物預かり所・休憩所・弁当引渡し場所	F111・F112
9:00 - 10:00	自由論題 D	E104 (会議室)
//	自由論題 E	E312
//	自由論題 F	E412
10:10 - 12:10	共通論題 3	E312
//	共通論題 4	E412
12:10 - 13:10	昼 食・総 会	F204
13:15 - 14:45	フォーラム	F204
15:00 - 16:40	学生向けワークショップ	F204